

第 51 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会③】

開催記録

1 開催概要

- 日時：令和 7 年 1 月 8 日（水）10：00 ～ 10：50
- 場所：JR 東日本 現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・ 谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・ 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・ 古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー） 欠席 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授）
オブザーバー	・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 港区 街づくり支援部 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 鉄道博物館 学芸部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
サポート	・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配布資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料 1：第 50 回委員会（12/4）部会①議事録案
- ・ 資料 2：第 50 回委員会（12/4）部会②議事録案
- ・ 資料 3：第 50 回委員会（12/4）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料 1：調査結果について
- ・ 資料 2：雑魚場架道橋付近における試掘調査について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 51 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 51 回委員会 (12/4) 部会①の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 51 回委員会 (12/4) 部会②の議事録確認

- 8 ページ最上段の老川委員の発言「仮設歩道橋」を「構造物」と修正する。(事務局)
- その他修正指摘なし。(委員一同)

3) 第 51 回委員会 (12/4) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 51 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

(2) 調査結果について

- 資料 1 について説明する。(港区)

<説明概要>

- 報告は仮橋脚 KP23-1、KP24-1～3 の口元管設置部の開削調査、同位置の No.57、59、60、65、及び遮水壁設置部の仮土留施工箇所 No.63、66 におけるボーリング調査の結果である。
- いずれの口元管部でも構造物や支障物は発見されなかったが、遺物が多く検出された。
- 口元管部の土層観察及びボーリング調査の傾向は今までの調査結果と同様にバラスト以下に褐色粘土層、灰色粘土層が堆積し、その下に薩摩台場と推定する暗灰色シルト・粘土の互層、その下に自然堆積層となる黒色粘土層の構成であった。
- No.65 の上層の暗褐色粘土、暗灰色粘土層から現代で見られる土嚢袋片を検出した。
- KP24-2 のライナー3 段目付近で縦方向に褐色粘土と暗灰色粘土に分かれる層があ

り、その上に硬化面が確認された。硬化面の上の層から瓦片が多く検出された。

- 硬化面は転圧で形成されることもあるが、今までの調査では確認されていない。
 - 暗灰色粘土は締りが弱く髭根のようなものが多く検出され、植栽痕や芝を敷いた痕に見られる状態という印象を持った。
 - これらは何らかの遺構、または薩摩台場の上面に当たることなどが考えられる。
 - ボーリング No.59 や 66 では礫や土丹塊がいくつか見られた。
 - ボーリングの結果は、口元管部において支障物等は確認されなかったが、今まで同様に薩摩台場の盛土に該当する層が T.P.+2.0~2.5m より下に分布するという整理となり、4 か所の口元管部においては、遺物が多く検出されるとともに薩摩台場の上端が T.P.+2.0m 付近で残存している可能性が確認された。
- 土嚢片とは具体的にどのようなものか。土嚢袋の繊維のようなものか。(小野田委員)
 - ← ボロボロだがそこまで古くはない白い繊維片であり、現場でよく見る土嚢袋と同じようなものであった。(港区)
 - ← これまで他のボーリング調査では検出されたことがない。(港区)
 - 何らかの理由で混入したと考えるのが自然と思われる。(委員長)
 - 遺物が明瞭に検出されたこと、硬化面として踏みつけられたような面が確認されたことが特徴的である。薩摩台場の盛土内の遺物、薩摩台場にかかわる遺構の一部と考えられる可能性があるかもしれない。(委員長)
 - 薩摩台場の遺構を明らかにする調査目的に対して、これまでの結果を補強する結果であり、実態が明確になってきた印象を持った。(委員長)
 - 石製や木製の構造物には支障していないため従来通りの考え方に則り、KP23-1、KP24-1~3 の仮橋脚、及びボーリング調査報告の仮土留の範囲について、仮橋脚及び仮土留の施工を可と判断したい。(委員長)
 - ← 異議なし。(委員一同)

(3) 雑魚場架道橋付近における試掘調査について

- 資料 2 について説明する。(港区)

〈説明概要〉

- 雑魚場架道橋付近では、初期調査である調査箇所①②⑤⑥で石積みが確認され、既に周知の埋蔵文化財登録がなされている。
 - この周辺において、高輪築堤の残存状況範囲を明確にするための追加試掘調査を行う。
 - 成果は随時委員会で報告する。
- 雑魚場架道橋付近では発見した海側石垣の石積みと橋台部の石積みの状況について、その後確認をしていなかったため、JR の協力のもと調査を進めることとした。(委員長)
 - 今回の調査は橋台部の石積みと築堤の築堤の海側石垣の関係を調べることを目的とす

る。(委員長)

(4) その他

- 本日の議論に感謝する。調査は引き続き丁寧に進める。(JR)
- 今年4月19日・20日に山手線外回りと京浜東北線南行を止めて線路の切換工事を行う。社会的に大きな影響のある工事となるが、しっかりと進める。(JR)

<部会①・部会③終了後>

- 最後に文化財行政からコメントをお願いしたい。
 - ← 部会②に関連し、駅街区の北棟部について、近世の板柵の部分を12月24日付で既に周知の埋蔵文化財包蔵地に登載されている港区No.227 遺跡に追加し、範囲を変更した。12月の見学会について関係者に御礼申し上げます。一般の方々の関心の高さを肌で感じた。京急連立事業範囲の調査も大詰めであり、これらを踏まえて5・6街区の評価をお願いしたい。(東京都)
 - ← 現地見学会を無事に終了できて何よりであり、協力いただいた関係者に御礼申し上げます。多くの見学者が概ね好意的に捉えており、熱心に見学していた。開催して本当に良かったと思う。引き続き委員会での議論と情報公開を継続していけたら良いと思う。(港区)

(5) 閉会

- 次回委員会は2月5日(水)10時00分より、会場はJR東日本現地会議室での開催を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第 51 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会します。
- ・ 挨拶
 - ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局) 部会②の 8 ページについて、配付した資料に修正がある。一番上に記載の老川委員の発言で「仮設歩道橋」とあるが、「構造物」と修正をお願いします。
- (事務局) その他、3つの議事録について修正等の指摘があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査結果について

- (港区) 資料 1 について説明する。資料 1-1 に示す緑色の箇所についての報告であり、その結果を受けて今後の進め方や工事の可否を判断頂きたい。KP24-1~3、KP23-1 の仮橋脚部の口元管調査となり同位置に記載する No.57、59、60、65 のボーリング結果を報告する。加えて遮水壁の仮土留の No.63、66 のボーリング結果も報告する。資料 1-2 で KP23-1、KP24-1 を報告する。いずれも口元管部での構造物や支障物は発見されなかったため、現状では口元管の設置も完了している。口元管のライナー部を開削してからボーリング調査を実施しているため、ボーリングの最上部が深い位置、ライナーの 3 段目あたりからの結果となる。調査結果の傾向は今までの調査と同様であり、写真よりバラストを剥いですぐ下の層が褐色粘土、その下に灰色粘土

が確認できる。これは今までの調査で薩摩台場の層の上に堆積している層になる。この下の暗い灰色のシルトや粘土が互層で存在する。こうした傾向が今までの調査結果と同様ということである。今回検出した遺物は今までの箇所よりもやや多い。KP23-1 ではライナー3 段目～4 段目あたりで 15 点ほど遺物が検出された。陶磁器片や木片である。この辺りから薩摩台場の盛土という判断をしている。ただし、ボーリング No.65 について上層の暗褐色粘土、暗灰色粘土としている層から土嚢片が確認された。土嚢袋の破片が混入していたのでその通りに記入した。これがどのように混じったのかボーリング調査だけでは判明できない。基盤層となる黒色粘土層の高さも今までの調査と同様に T.P.-2.0m 以下から確認されている。資料 1-3 で KP24-2、KP24-3 を報告する。こちらも概ね資料 1-2 と同様の結果となるが遺物が多く確認された。特に KP24-2 のライナー3 段目の所で掲載する遺物のほか手のひらサイズの瓦が 13 点ほど確認された。この箇所において、縦方向に褐色粘土と暗灰色粘土に分かれる部分があり、その上面に硬化面が確認された。上からの転圧によって土が固く閉まることもあるが、今までは明らかな硬化面を確認したことはなかった。硬化面より上の暗褐色土の部分で瓦が多く発見された。暗灰色粘土の部分から鬚根のようなものが多く確認され、締りも弱い状態が確認された。江戸時代の植栽痕や芝を敷いた後に見られる状態のような印象を持った。これが遺構に当たるのか、薩摩台場の上面に当たる部分なのか、ということが考えられる。ライナープレートの 3 段目～4 段目が薩摩台場の上面に当たると考える理由は、以前発見された甕の存在がある。ボーリングでは礫層や土丹塊などが入っていることが確認されたが、概ね今までの調査結果と同様である。資料 1-4 で No.57、59、60、63、65、66 のボーリング結果を一例に並べたものを提示する。柱状図中に白抜きになっている箇所がいくつかみられる。礫や土丹塊が検出されたところである。No.59 や 66 では礫や土丹塊がいくつか見られた。ボーリングの結果は、口元管部において支障物等は確認されなかったが、今までと同様に薩摩台場の盛土に該当する層が T.P.+2.0～2.5m より下という整理になる。4 か所の口元管部においては、遺物が多く、薩摩台場の上面が T.P.+2.0m 付近で残存している可能性が確認された。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(小野田委員)

土嚢片とは具体的にどういうものか。土嚢袋の繊維のようなものか。

(港区)

その通り土嚢袋の破片となる。ポロポロだがそこまで古いものではないような真っ白な繊維片である。

(小野田委員)

繊維の質までは判別できないか。

(港区)

現場でよく見る土嚢袋と見間違えるものではなく、土嚢袋の破片と判断した。これまで、他のボーリング調査では出てきたことがなく、初め

てである。

(委員長)

何らかの理由で混入したと考えるのが自然と思われる。

(委員長)

遺物が明瞭に検出されたり、硬化面として踏みつけられたような面が確認されたりしたことが特徴的であった。薩摩台場の盛土の中に入っている遺物、薩摩台場にかかわっている遺構の一部と考えられる可能性があるかもしれない。薩摩台場の遺構を明らかにしていくという目的でのこれまでの調査結果を、補強できる結果であり実態が明確になってきたという印象である。一方で、石製や木製の構造物には当たっていないので、従来通り、KP23-1、KP24-1～3 の仮橋脚、及びボーリング調査報告の仮土留の範囲について、仮橋脚及び仮土留の施工を可と判断できる。これは従来通りの考え方に則っている。

(委員一同)

異議なし。

(委員長)

では、報告頂いた調査結果に基づき仮橋脚及び仮土留の打設を可という判断をする。

(委員長)

他に何かなければ、次に進める。

(3) 雑魚場架道橋付近における試掘調査について

(港区)

資料 2 について説明する。雑魚場架道橋付近では、調査箇所①②⑤⑥で築堤と思われる石積みを確認され、すでに遺跡の範囲として登載している。この周辺の試掘調査を進めることで、高輪築堤の残存状況の範囲を明確にするために追加調査を行うこととした。JR 東日本の協力のもと、調査箇所⑬～⑳の箇所で調査を実施することとなった。薩摩台場の範囲から新橋方に外れる範囲になる。この成果については随時委員会で報告する。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(委員長)

ご説明いただいたように、雑魚場架道橋に関しては、この赤丸のついた調査箇所①②⑤⑥は、当初、遺構の有無の確認をしたときに発見された海側石垣の石積みである。雑魚場架道橋に関しては、橋台部の石積みを平面図・立面図に図化し、石積みの状況の確認を行った。また、石積みの石材同定も行っている。その後は確認していなかったが、今回の調査は JR の協力もいただいて、この橋台部の石積みと築堤の海側石垣の関係をきちんと調べることを目的とする。この部分の成果は今後の高輪築堤の在り方を考える上でも、非常に重要な材料になっていくと考える。調査を実施して成果に関しては報告を受けることとする。

(委員長)

他に何かなければ、次に進める。

(4) その他

- (委員長) その他なにかあるか。
- (JR) 本日の議論に感謝する。調査の方は引き続き丁寧に進める。年末 12 月 24 日にプレスリリースを行ったが、羽田アクセス線の工事に伴い、今年 4 月 19 日・20 日に山手線外回りと京浜東北線南行の 2 線を止めて線路の切換工事を行う。社会的にも大きな影響を与える工事になるが、羽田アクセス線についても注目されるものとなる。しっかりと進めていきたい。

<部会①・部会③終了後>

- (委員長) 最後に文化財行政からコメントをお願いしたい。
- (東京都) 部会②に関連し、駅街区の北棟部について、12 月末に港区からこれまでの調査を踏まえて、周知の埋蔵文化財包蔵地をさらに 2 か所追加したいという依頼があった。北棟の北側と南側の近世の板柵の部分になる。こちらについて 12 月 24 日付で既に周知の埋蔵文化財包蔵地に登載されている港区No.227 遺跡に追加し、範囲を変更した。12 月の見学会については、関係者に御礼を申し上げる。月曜日に参加したが、一般の方々の関心の高さを肌で感じる事ができた。京急連立事業の調査も大詰めを迎えている。これらも踏まえて 5・6 街区の評価について、引き続きよろしくお願いしたい。
- (港区) 現地見学会を無事に終了できたことが何よりだと思っている。協力いただいた関係者に御礼申し上げます。多くの見学者に概ね好意的に捉えていただいた。遺構や遺物、パネルも熱心に見ていた。開催して本当に良かったと思っている。引き続き委員会での議論と情報公開を継続していけたら良いと思っている。

(5) 閉会

- (事務局) 次回委員会は、2 月 5 日（水）10 時 00 分より、会場は JR 東日本現地会議室を予定する。お忙しい中貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。閉会とする。

以 上